

## Welcome to AmicaleNZ and New Zealand



☆荒川千明

私たちAmicaleNZは、ニュージーランド(New Zealand)のオークランド(Auckland)をベースとした会社で、3つの柱で成り立っております。挙式をコーディネートさせて頂くAmicale Wedding、プチ留学/高校留学をサポートさせて頂く教育部門Amicale Education、そして、本格的な専門留学を考えていらっしゃる方のための専門学校NSIA(North Shore International Academy)マーケティングスペシャリスト、となっております。

ウェディングとエデュケーションは関係ないのでは?と思われるいらっしゃる方も多いでしょう。しかし、共通したモットーは「カスタムメイド」手作りで運営しているという点では、大いに関係あります。

HIROKI



HARA

マジシャン…原大樹

## IBM国際マジックコンベンション

今日は朝からダローのレクチャーに行ってきました。夕方、ジャッジからフィードバックを受けました。すごく丁寧に答えてくれて自分の長所・短所が分かり勉強になりました。

夜のファイナルガラは、テレビ画面を使ったコメディークットのトニーチャベックが最高でした。完成度がすばらしく高かったです。7割の人がスタンディングオベーションをしていました。もちろん僕も立ち上がりました。あとジャグリングの女性も素晴らしいかったです。

ショーが終わり、今回のIBMで仲良くなったスターリングとかジュニア友達に別れの挨拶をしてまわりました。みんなすごく良い子たちばかりで異国の地から来た僕をやさしく仲間に入れてくれました。みんなノリが良く面白くて、マジックにも熱い情熱をもっていました。

スターリングのご両親はすごく僕の演技を気に入ってくれて「今度アメリカに来る時は、是非家に泊まりに来なさい。大きなスタジオもあるよ。これからメールや演技のDVDをお互い送りあって交流を始めよう。今日はそのスタートの日だよ」というありがたいお言葉をかけていただきました。

ずっと日本の山奥で1人孤独にマジックをしてきた僕にとって同い年のアメリカのジュニアマジシャンと友達になれたことは大きな喜びでした。

みんなとハグして別れの挨拶をしたあと、突然、写真撮影が始まりその後30分くらいずっと、いろんなパターンで写真を撮りあいました。ふざけあって爆笑写真もいっぱい撮りました。

ここで撮影した写真は一生の宝物です。

このIBMでたくさんのことを学び、また、かけがえのない素敵な友人達と出会うことが出来ました。自分を日本から支えてくれたみなさん本当にありがとうございました。みなさんには感謝の言葉しか出てきません。



## イギリス旅行 報告書

2008年3月25日 江原 悠

今回の旅では、今までのどの旅よりも得たものが多く、現地の人と接することが出来ました。これまではなかった、地下鉄での移動、現地の人との食事、カレッジの入学希望者担当の人と話すといった、これまでの旅行ではなかったことが経験できました。(ロンドン大学の2つのカレッジとオックスフォードにも行きましたが、ここではとくに書いてありません。)

ロンドンのタクシーは、これまでに乗ったタクシーで最も良いと思いました。荷物は載せやすく、運転手はトレーニングされていて、料金は高いですが、ビクトリアのいい加減な運転手よりは信用でき、車そのものも気に入りました。そして、この旅では地下鉄を多く利用しました。コーディネーターが、「毎駅チケットを買うよりも、一日券を買った方が安い」ということで、チケットは僕自身が窓口で購入しました。それは今までにない経験で、地下鉄に乗るということを知った晩は、「地球の歩き方」で地下鉄を紹介しているところを読みました。異国で電車に乗るというのは、特にイギリスで、やって

みたかったことで、それが出来た事は嬉しかったです。

ケンブリッジでは、コーディネーターの紹介で、3人のケンブリッジの学生とランチをとりました。彼らは生粋の、白人のイギリス人ではなく、2人は中国からで、そのうちの一人は日本で中学と高校に行っていたそうです。もう一人はイギリス人と日本人のハーフでした。3人は皆、違うカレッジで違う学部だそうです。彼らと話すうちに、大変だと思っていた自分の生活がそれほどものではない事がわかりました。3日で10冊の本を読み、2000語のエッセイを書く日々、夏休み前に本のリストを渡された事や、授業後には図書館にこもって勉強していることなど、自分とは比較にならないなと思いました。しかし、それがわかったことで明日(春休み明け)からの生活に変化をつけようと思っています。彼らはみんな親切で、好印象でした。僕にしては珍しく、初対面にも関わらず色々質問をし、こちらからよく話していました。

## バルカンの国々からの手紙…鳴島 藍子

あまり纏まった意見が書けないけれど、一番実感している事はニュースや新聞等でしか聞いた事がない国々が身近にく正に世界にグッと近づいた気がする>なった事。紛争でボロボロになって郵便なんか届かないだろうと妙な偏見が捨てられた。

ボスニアの子が私が何も解らないうちに戦争になった。違う民族に偏見や恨みは抱いていなかった>というのを読んで、こういう状態の時に国の中だけで情勢を適切にみるのはとても難しいのだろうなと思った。でも外に出て大国の主張・意向でメディアも平等ではないから、民族のモザイクと言われるバルカンをやはり自分もきちんと把握はできないと思う。それからネットの力と言うのはとても凄いなという事。私の

ペンパル達はネットで日本の音楽やアニメをみて日本に興味を持ったから。今はコンソ問題で揺れているから、ニュースを見るたびに心配になったり、それに関する記事を切り抜いたりして、少ない情報の中で自分の中でコンソ問題への意見を構築中です。



セルビア、マケドニア、ボスニア、クロアチア、スロヴェニアのバルカンの国々から。



☆江原 悠

彼らに会う前と会った後に、一つずつカレッジに行きました。一つはケンブリッジの中でも入るのが難しいと思われるクライストと、1981年に設立されたばかりのロビンソンです。どちらも入るのいい成績が要ることはもちろんですが、クライストの場合は、世界でトップの1%である事が要求され、ロビンソンで必要な3つのAと、カレッジによって要求される成績に大きな差があることがわかりました。

ビクトリアからロンドンへは思ったよりも遠く、ビクトリアに着いたときは、こと東京を4往復したような気分でした。到着は雨に迎えられ、帰りは雪、そして滞在中も一週間ずっと雨という天気でした。しかし、今回の旅での収穫は大きく、とても有意義に過ごす事ができました。そして、進学の下見という目的があったからわかりませんが、旅行の浮かれた気分は自分にはなく、自分はどこに居ても自分なのだと思いました。

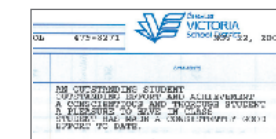
ビクトリア市立  
スペクトラム高校校長賞  
成績優秀賞を受賞



江原悠成績優秀賞2008年



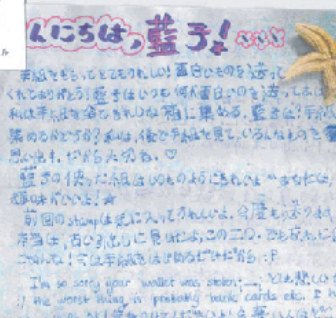
江原悠成績優秀賞2007年



マケドニア、



ボスニア、



日本語の手紙は  
リトアニアの  
エベリーナから、

セルビア、

舞妓のイラストはフランス人イラストレーターのシリエルの絵